

講演会・カンファランス等のご案内

北九州地区小児科医会のご案内

第8回 北九州ワクチンフォーラム (WEB開催予定)

日時：2021年9月13日 (月) 19:00~20:00

演題：「感染症への対策～新型コロナウイルス流行を
ふまえて」

演者：川崎医科大学 小児科学 教授 中野 貴司 先生

※事前登録の申し込みが必要です下記リンク

もしくはQRコードより登録ください。

https://mt-pharma-jp.zoom.us/webinar/register/WN_0ePU2h8HShW9z19oqfk_Mg



第572回北九州地区小児科医会例会 (WEB開催)

日時：2021年10月29日 (金) 19:15~

講演：「小児科診療で使ってほしい漢方薬」

演者：三重大学付属病院 漢方外来 高村 光幸 先生

※事前登録の申し込みが必要です下記リンク

もしくはQRコードより登録ください。

<https://bit.ly/3ixhLq9>



その他講演会などのご案内

第 439回小倉小児科医会臨床懇話会(Web 講習会)

日時：2021年9月30日 (木) 19:00~

演題1：「胆道穿孔によって発見された胆道拡張症症例
について」

演者：北九州市立医療センター 小児外科 大森 淳子 先生

演題2：「新規圧迫剤を用いた乳児臍ヘルニア圧迫療法
について」

演者：北九州市立医療センター 小児外科 中村 晶俊 先生

<要事前申込> 連絡先:小倉医師会 TEL.093-551-3181

第31回全国病児保育研究大会 in 北九州 (WEB開催)

日時：2021年10月9日 (土) 10日 (日)

詳しくはHPを参照ください

<https://hoiku2021.com/registration/>

R3年度第1回乳幼児健診登録医療機関研修会

日時：2021年11月8日 (月) 19:00~

場所：北九州市立商工貿易会館 2F 多目的ホール

報告：「R2年度乳幼児健診等結果について」

北九州市子ども家庭局子育て支援課

演題：「乳幼児歯科健診と低ホスファターゼ症の
医科歯科連携」

北九州市歯科医師会 専務理事

板家小児歯科院長 板家 隆 先生

※昨年度はコロナ禍のため研修会は1回しか開催できませんでした。本来は年1回以上の出席が義務づけられていますが昨年度出席できなかった登録医療機関は今年度最低1回出席で登録医療機関として継続されます。

(R3年度第2回の研修会はR4年3月に開催予定)

産業医科大学カンファランス・セミナー

現地とWeb配信のハイブリッドで開催いたします。

Webでの参加をご希望の先生は、

j-syoni@mbox.med.uoeh-u.ac.jpまでご連絡願います。

後日、参加方法の詳細をお知らせいたします。

第12回八幡地区病院小児科合同カンファレンス

日時：9月13日 (月) 19:00~

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

<テーマ：COVID-19流行の間接的影響を受けた事例>

演題1：SARS-CoV-2に強い恐怖を訴えた不登校のある
7歳女児

済生会総合病院小児科 白山 理恵 先生

演題2：NO吸入療法中患児の付添者がCOVID-19発症した
事例の対応について

JCHO九州病院小児科 杉谷 雄一郎 先生

演題3：新型コロナ流行前後における思春期心身症患者数の
変化について

北九州市立八幡病院小児科 大武 瑞樹 先生

演題4：新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施された
長期休校が児童生徒の体格へ及ぼした影響

産業医科大学小児科 桑村 真美 先生

※9月は、産業医科大学小児科セミナーはお休みです。

産業医科大学小児科セミナー

日時：10月28日 (木) 18:00~

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

演題：見逃してはいけない神経筋疾患—筋ジストロフィー

演者：産業医科大学小児科 柴原 淳平 先生

五十嵐 亮太 先生、福田 智文 先生、石井 雅宏 先生

※10月の産業医科大学小児科クリニカルカンファレンスはお休みです。

保険診療メモ (202108)

9月から社保の審査方法が変わります

「変わります」といっても当初は多くの医療機関とくに開業医の先生方には大きな変化として感じないと思います。

政府の規制改革会議の指摘を受け、平成29年7月に支払基金が、同年10月に国保連合会が業務改善計画を発表しています。その後、国会で承認され関係法規（支払基金法など）に改善計画が取り込まれ、現在改革が進行中です。その一環として、レセプト審査の90%を目標にコンピュータチェック（以下、CCと略）で点検・審査を終了することになっています。直ちに90%は達成できませんので、2年後を目標達成時期としています。

入院レセプトや新規開設（開業）後6か月間、特定の医療機関（大病院の一部、請求過誤の多い医療機関など）はこれまで通り、CCの後にすべてのレセプトに対し事務職員の点検作業や医師による審査が行われます。CCが軌道に乗ってくれば、これらの施設への点検・審査に多くの時間を費やすことができますので、より厳しい審査になってくる可能性があります。

9月から支払基金に提出されたレセプトは複数のAI（人工知能）が搭載された大型コンピュータに取り込まれます。これまでとは能力的に格段の差があります。すでに蓄積された大量のレセプトデータ内でAIは学習中と聞き及んでいます。少なくとも今後2年間のCCチェック作業は問題のないレセプトを見つけて、それで審査を終了して保険者に送るということに使われます。ただし、将来的にはCCで査定も行われる計画となっています。

これまで医療機関ごとに審査が行われていましたが、9月からは1枚1枚のレセプトが個別に審査されます。これまで優良医療機関として見逃していた多少の誤りも「お目こぼし」してくれません。一方、個別審査の欠点である医療機関の傾向的診療の判断はAIが監視・判断することになるのでしょうか（詳しいことは分かりません）。もっとも、現時点で傾向的診療が問題となっている医療機関は目視対象ですので、CCの後に施設ごとにレセプトはまとめられて点検・審査が行われます。

筆者の気になる点は、これまで小児科では中耳炎の左右の別や湿疹の部位（範囲）の記載のないものでも認めていました。これらのレセプトに対するAIの判断は算定可？ 返戻？。耳鼻科や皮膚科ではこのような不備と思われるレセプトは少ないのですが…。また、コンピュータの能力が十分でなかったこれまでは、初診料の算定や抗生剤の適応については点検を行う事務員や審査委員の目視が重要でした。大型コンピュータ+AIではどうなのか…。この原稿を書いている時点では不明です。AIは逐次学習を続けますので、当初見逃されていたものが後になると査定の対象となることは大いにあり得ると思います。先生方も査定を受けた場合には早急の改善を行うようお願いいたします。

なお、来年（令和4年）10月からは福岡県に設置される業務センターで、熊本県、鹿児島県を除く九州6県のレセプトがまとめて処理されます。平均点数が全国トップクラスに高い福岡県の査定率の今後がどうなるのか気になるところです。なお、審査の最終の判断は各県の審査会で行いますので、それぞれの都道府県に現在ある審査会はそのまま残り、10%の目視レセプトの審査や審査決定の最終判断を行います。

国保連合会の業務改善計画は支払基金の約1年遅れで進行しているようです。両者の審査基準の統一は令和6年4月に予定されています。それまでは紆余曲折の道のりです。審査判断は、法的に療養担当規則と医科点数表の解釈で行うことになっていますので、これまでと大きな変化はないと思われます。ただ、将来的に高単価のレセプトは見る目が厳しくなりそうです。

（福岡県小児科審査委員連絡会）

役員会報告 (9月2日：木曜日)

新型コロナウイルス感染症への対応について情報交換・協議を行ないました。

9月2日議事録：

▼有門先生から口頭にて伝言のご報告

8月28日時点で、妊婦の陽性者が13名、自宅療養が8人、7月1日から8月28日の発生数、15歳まで482名、全世代で3757名。(6歳まで180名、うち入院13名、155名残りが調整中) 殆どが、無症状、軽症状だったが、熱が出たり、頭が痛い等色々な症状を訴えている人がいる。入院の理由、保護者の状態の悪化や本人の脱水での補液が目的で入院している。また、夜間の受診が特定の医療機関に集中しているのではと危惧しています。また、自宅療養になったときに、対症療法の処方がかかりつけ医に依頼が行くであろうから、薬局等と連携してできるように協力していただければと思います。

最近、園医をしている保育園の0才児が1名陽性、30数名が濃厚接触者、今日もかかりつけの人がPCRの検査依頼の電話が多数あり、7-9名ほどは受けた。車がある人は、八幡の検査センターを伝えているようですが、近くの方が検査依頼が多い。徒歩の人などは隔離室を使用して検査を行っている。どうしても、園医とかかかりつけに集中してきているので、診療検査医療機関に登録していなくても、処方していただいたりできないものでしょうか。特定の医療機関に集中すると、大変になってきている。皆様の意見をいただきたい。

新聞・報道等で抗原検査が話題になっていますが、8月26日に教育委員会等に抗原検査のキットを配布して、現場の方では、文科省のやり方に沿って医師会や学校医と相談してやってもらう話があるが、困惑しているところがある。やり方としては、保護者に承諾書をとって、学校の先生が立ち会いのもと、自分で鼻腔内に綿棒を入れてとるというような。細かいマニュアルというものができているわけではないようです。また、教育委員会の方でも具体的なやり方が決まっているわけではなさそうです。教育委員会だけでなく、児童養護施設の症状のある職員の検査の目的のために配っているようである。公的な機関で、やった場合、医療廃棄物になってしまうので、そのあたりにも注意を払う必要があるとのこと。新聞・報道では、宗像地区が先行してやっているという話であった。

実際、ある学校(私立)では、子供が調子悪かったら、抗原検査を養護教諭の立ち会いのもとにやるという同意書があった。自分で鼻に入れるということみたいであるが、とり方で、偽陰性になることもあるだろうし、個人情報としても特定されやすく、配慮が必要でだろう。また、対応する養護教諭がフェイスシールドをするなどの対応についての準備はあまりできていない。

その他保育園等では、対象は学校の先生が対象のようです。

最近、病児保育において、入室時に風邪症状があれば予め抗原検査をするのかということが議論になっている。今後やるのであれば、どの病児保育でもやる方向にもって行ったほうが良いのではないかと。そうすると、キットの金額がばかにならない面があり、検討されているところです。

Q:北九州は、市立幼稚園や学校に配布されているのか？

A:まだない。通達が役所にきている段階だと思われます。

養護施設には、必要だったら数を言ってくださいのような問い合わせの連絡は来ていると聞いています。WEBで研修を受けたスタッフがやるような仕組みになっているようです。実物は配布されているわけではないようだ。保育課の方はこれから問題点を協議するという段階と聞きました。そうです。大卒は国から降りてきているのですが、現場も困っている状態のようです。(使用した数も報告しないといけないし、使用しないで流行しても問題になるであろうし)

学校関係者に陽性者が出た場合の対応に関しては、日本全国、県や自治体によって対応が異なっているようですが、CCATの会議では、基本的な考え方を示しています。休校措置に関しては、陽性者の最終登校日(もしくは出勤日)からウイルスの生存期間である72時間の間、濃厚接触者が特定されるまでは休校、学校の消毒は72時間経過後教職員にて行う。学校の再開は陽性者の最終登校日(もしくは出勤日)から72時間経過して濃厚接触者の特定、および消毒が終了していれば再開を検討できる。濃厚接触者がいる場合には検査がわかるまでは学級閉鎖。そういったことを先日検討した。

Q:北九州市保健福祉局からでた、8月19日の文書の解釈を教えてください。期間限定の緊急事態措置の更なる強化に関する提言において、(参考：https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/ful/taisakusuisin/bunkakai/dai5/kyouka_teigen.pdf) 検査の更なる促進という項目に、自治体は、学校、職場、保育園等において、体調が少しでも悪い場合には気軽に抗原定性検査やPCR検査を受けられるよう促すこと。検査陽性者を確認した際には、医師や健康管理者は、保健所の判断が無くとも、さらに濃厚接触の可能性のある者に検査を促すこと。とありますが、主語がはっきりと書いていないのでわかりませんが、この判断はどのようなことなのでしょう。小学校や園などから病院で検査をしてもらいなさいと言われたら、見境なくいわれたらそういった方針に従って検査をやらないといけないのでしょうか。学校、園長などが、気軽に検査に行ってきたと言われた際に、こちらとして検査が嫌と言う場合にどのようになった場合にどのように対応したら良いのでしょうか。

役員会報告（9月2日：木曜日）

新型コロナウイルス感染症への対応について情報交換・協議を行ないました。

A:保健所が動けなくなってきたくらい多くなっているの
で、そのあたりの判断をしてもらって検査を行ってほしいとい
う要望というように解釈するのが良いのではないのでしょうか。
現状、感染ルートを追えなくなってきたところがある。その
判断をそれぞれがしていくということになるのではないでしょ
うか。

児童発達支援センターでクラスターがあり、その際の患者は
検査も大変であった。マスクができない人が多く、唾液での検
査も難しいため、鼻腔から取る際にPPE等の防護に注意が必要
である。通常より飛沫が非常に多く、マスクができない人の対
応がなかなか難しい。

ケースとして、先日、近くの園長から濃厚接触者が92人とい
う話があり、電話では全く判断ができない状態であり、濃厚接
触者かどうかの判断が難しい。有門先生に尋ねると症状はなく
ても濃厚接触者は検査をしてくださいと言われた。その後、大
量に電話がかかり、その際は、1つの家族内感染で、それぞれ
施設にも1人ずつの発症であったが、園以外の施設からも問い
合わせがあった。皆元気で、特に有症状者はいなかった。PCR
キット30はおいていたが、到底足りなくなり、保健所に問い
合わせて、キットを取りに行った。ただ、次の日には全く患者
は来なかった。遅れて数日して発熱した人が数名来られて、そ
の中で再度検査して陽性者がいました。家族内感染が多く見ら
れているような感じです。ここ1か月で、0歳が1人、1歳が1
人、3歳が2人、5歳が2人、7歳が6人、10歳代が5,6人、20歳
代が5,6人であり、家族感染が多く、2家族くらいあった。

無症状であっても濃厚接触者ということで、保険診療は可能
です。傷病名をしっかりと記載してください。京築では無症状の
方などは保健所が検査を行ってくれている。

最近陽性者が多いので、スタッフの陰性確認を行った際にス
タッフが1名陽性がでて、その際に、一緒に休憩食事していた3
名が濃厚接触者扱いになって、そのうち2名が陽性になった。
陰性であった1名は、無症状であっても2週間は毎日抗原検査を
して、陰性であれば勤務しても良いというような通達もある。

（事務連絡 令和3年8月13日（令和3年8月18日一部改
正）医療従事者である濃厚接触者に対する外出自粛要請への対
応について [https://www.mhlw.go.jp/content/
000819920.pdf](https://www.mhlw.go.jp/content/000819920.pdf)）

Q:神菌先生からも提案のあった感染が発生したときにML流
してはどうでしょうかという意見がありましたが、どうでしょ
うか。保健所からそういった情報を医師会に回してもらって
それを回していくということではできないのでしょうか。

A:できないということはないと思いますが、去年は難しいと
いうことでしたが、人数や状況が変わってきていますの
で。ただ、現在は、北九州市のHPでの報告が始まっている。

（[https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/
menu01_00274.html](https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/menu01_00274.html) ページ内のリンク先学校における新
型コロナウイルス感染症への対応について）個人が特定で
きないような情報出ない限りメーリングリストに乗せるのは
あまり好ましくはないのでしょうか。（学年やクラスなども
だすと難しいでしょう）

▼ワクチンについて

北九州は集団接種を中心にしていく方向であり、個別摂取
に関しては、新たな予約が、9月いっぱいできなくなるとい
うような通達が来ている。

メディアドームの会場は、医者が20名くらい来ているので
アレルギー対応はできるであろう総合病院の勤務医が少し
でも入ってくれば、接種する開業医も安心するであろう。

今後、集団接種しかなくなれば、自閉症の子など暴れる子
もいるので、そのあたりが問題になるのではないかと。施設
のかかりつけがやってやるとか、学校医が行ってやるとかそ
ういった方向を見つけていく必要があると思います。親が
集団接種につれて行きたくないというような人も。なんとか
そういった人たちのために枠を残しておきたいがどうか。

市のワクチンは、年齢関係なくしている状態なので、予約
が取れたらどの年齢でも構わないというところでしょう。メ
ディアドームなどでも、まとめて学校から行って集団でやる
などしてもらった方が良いのではないのでしょうか。

また接種の記録を母子手帳にしてもらったりないので、そ
の確認が気をつける必要がある。

Q:予診票：16歳未満は保護者のサイン、とありましたが、ど
の様になっていますか？

A:16歳未満の接種希望者の「新型コロナワクチン接種希望
書」自署欄について16歳未満の方が接種を希望される場
合、「新型コロナワクチン接種希望書」には保護者の署名が
必要です。また、原則、保護者の同伴が必要ですが、中学生
以上の接種希望者に限り、保護者自署欄にて保護者の同意を
確認できた場合は、保護者の同伴がなくても、接種は可能で
す。（<https://www.mhlw.go.jp/content/000786185.pdf>
新型コロナワクチン予診票確認のポイントver3.0）

役員会報告 (9月2日：木曜日)

協議事項・報告事項

- 1) 北九州地区小児科医会の会費の集金を行いますので、ご協力をお願いいたします。
- 2) 今後の例会について：
ZOOM等での開催となるため、北九州地区小児科医会のみでなく、福岡県全体の小児科医会にも案内の配信することになっています。
- 3) 第58回定期総会について
2022年1月16日(日曜)リーガロイヤルホテル小倉にて開催予定。特別講演講師には、福岡大学医学部小児科教授 永光信一郎先生に依頼した。公演タイトルは「ICTと医療・健康・生活情報を活用した次世代型子ども医療支援システム」の展望となっています。小児科専門医更新単位を申請予定です。
- 4) 新入会の方で、ML登録をご希望の方はアドレスとともにご連絡ください。

委員会報告

1. 学術委員会報告：白川嘉継

10月29日 (金) 19:15~20:30

会場：小倉医師会館 ハイブリッド開催

株式会社ツムラ

三重大学附属病院 漢方外来担当 高村 光幸 先生 (小児科)

小児科診療で使ってほしい漢方薬

11月予定 第一三共

インフルエンザ関連

福岡歯科大学教授 岡田賢司先生予定

12月予定 塩野義製薬

新型コロナ関連演題

2022年

1月 総会 報告事項参照

2月 未定 調整中

3月 未定

その他、COVID19のため、委員会は行われておりません。